



CONTENTS

- ◆後援会会長あいさつ…………… 1
- ◆教育学部長あいさつ…………… 2
- ◆「未来教師塾」開設…………… 3
- ◆学生の年間スケジュール紹介 …… 4
- ◆卒業生の声…………… 8
- ◆後援会活動の概要…………… 11
- ◆後援会幹事名簿…………… 12



子供たちに向き合う教育者になるために

後援会会長 吉 野 功

春陽の候、島根大学教育学部後援会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より後援会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。本年度、会長を務めさせていただくこととなりました。微力ではございますが、副会長をはじめ役員、会員の皆様の力をお借りして、本後援会のますますの充実、発展のためのお手伝いをさせていただきたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

さて私事ですが、出雲市剣道連盟が行う強化事業で、毎週月曜日に小学5、6年生30人余りの剣道の指導を担当しています。その中で下半身の鍛錬のため、蹲踞（そんきょ：力士が勝ち名乗りを受ける時に行うしゃがんだ姿勢のことで剣道では立ち会う前後の礼法の姿勢）で体育館を端から端まで歩く稽古を取り入れています。これがなかなか辛いのです。始めた当初は倒れ込む子やあきらめて歩く子もいました。その稽古の際に子供たちに寄り添って「あきらめるな！」と声をかけ続けました。この「あきらめるな！」は東日本大震災の特集番組で、以前の暮らしを取り戻すために「あきらめずに前を向いて毎日を送っている」と答えておられた東北の被災者の言葉をお借りしたもので、子供たちにもそのことを話したところ眼の光が変わりました。月を重ねるごとに脱落する子は減っていき最近では皆が歩ける様になりました。今では蹲踞歩きを終えた子供たちの顔は自信に満ちあふれ頼もしく思えます。子供たちに向かい合いながら、つらい稽

古に立ち向かう気持ちを伝えられたという指導者としての喜びだけでなく、逆に子供たちから元気をもらえたような気がしています。

昨今、痛ましい少年犯罪の報道が相次いでいます。明るく元気な世の中には子供たちの明るい、自信あふれる顔が必要だと思います。根気よく子供と接し、勉強、友人、親兄弟の大切さを学び、成功体験を得てもらうためにも、目の前にいる子供たちに教育者が本気で向かい合うことが大事だと感じます。教育者の役割が以前にも増して重要になっている中、学生達には実体験などを通じて学び、社会に貢献する人材に育って欲しいと痛切に感じています。

本後援会は「島根大学教育学部の発展充実に寄与し、在学生の教育に関し、学部と協力すること」を目的に昭和27年から今日に至るまで学部長をはじめ、多くの先輩方、学部の教職員の皆様に支えられ、「1000時間体験学修」などの様々な活動支援を会員の皆様の会費等を財源として運営しております。

学生達は何かある度に、悩み、考え、時には挫折するかもしれませんが、しかし、あきらめずに前を向き、自分自身で考え、仲間と学んで行く力を身につけ、子供たちに向き合う教育者になる様、会員の皆様と応援したいと思っています。

最後になりましたが、会員の皆様におかれましては本会の活動にご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



「おかげ様で、教員採用試験合格者、過去最高の人数でした」

教育学部長 小川 巖

教育学部後援会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素から、本学部の教育・研究活動、就職支援活動等に多大のご理解とご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

今年度入学生の保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。お子様たちの「教師になる」という夢、また将来の「社会人としての自立」に向け、我々学部教員一丸となって支援していく所存です。保護者の皆様の本学部へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

本学部は、平成16年度に、島根県・鳥取県両県の教員養成を担う基幹学部として、鳥取大学の現在の地域学部との再編統合を経て、新たな学部としてスタートしました。医学部や薬学部と同様の、高度な専門職業人を養成する、いわゆる「目的養成学部」です。

先月、文部科学省から2名の方が、本教育学部に「先進地視察」として来られました。目的は、「1000時間体験学修」に関する聞き取り等調査でした。

本学部の特色として、「1000時間体験学修プログラム」や「プロファイルシート（教師力総合支援システム）」、また、これまでの教師力パワーアップセミナー等を統合し昨年度よりスタートした就職支援活動としての「未来教師塾」があります。

3月25日に卒業した後、多くの卒業生は、遅くともその2週間後には教壇に立ちます。教師は授業をするだけではありません。保護者との面談もあります。また、今日の学校は地域と協働しながら教育を行う使命をもっています。これからの教師は、学校の中での同僚性に留まらず、学校外の地域の多くの教育・教育外専門家等との協働力が必要とされます。

昨年度、文部科学省は、これからの教員にとって必要な資質として、一生涯、学修し続けるタフさや、持続する探究心・向上心などをあげています。

では、そのような「力」はいつどこで、どのようにつけるのでしょうか？本学部では、平成16年度の新入教育学部から、大学から地域社会に出て行くまでの連続性を意識した学部教育プログラム・体制を構築してきました。すなわち、大学での講義・演習のみではなく、長い教職生活の基盤になり得る社会人を育成するため、地域に出かけ様々な人たちと交流する「1000時間体験学修プログラム」を発展させてきたものです。

上述した文部科学省からの視察では、教師に必要な実践的・持続的・未来向上的力を、学部養成の段階から如何にして身につけさせるか？という、これからの

教師の養成に必要な情報収集の一環としての訪問でした。

訪問された方が、当初聞き取り対象と予定していた体験学修と同等に時間をさいて聞き取られたのが、本学部独自の「プロファイルシート・システム」でした。「プロファイルシート・システム」は、それを介して指導教員と学生が直に語り合う、学生が自らの育ちを自己評価し、これからの自分に思いをはせるためのポートフォリオです。

評価内容は講義・演習に関連するもののみならず、そこには体験学修成果も含まれています。ただ単に学外に出て体験すればよいというものではなく、送り出す前や後の指導、さらに体験によって自分に何がもたらされたのか、またそれが演習で得た知識・技能と自分の中で統合されているかなど、本学部は、厳密な評価・支援システムを整備した上で体験学修を推進しています。

後援会の皆様には、学内環境整備費はもとより、「1000時間体験学修」に必要な交通費等の援助、就職支援の一環として教職試験対策用書籍整備等、また教員採用試験等の交通費の助成もいただいています。さらには、上述した「未来教師塾（教師力パワーアップセミナー）」における面接員としての支援もいただいています。

平成26年度卒業生の教員採用試験合格者が、過去最高の「48人」でした。このような結果を得ることができましたのも、学生個々人の学修努力はもちろんのこと、その支援体制づくりにご協力・援助していただいている後援会の皆様のお力添いがあったことです。学部教職員一同、感謝申し上げます。

「教師になりたい」という夢を強くもって入学した学生、自分には何ができるのかという不安を抱えている学生など、多様な学生がいます。4年間という限られた大学生活の中で、学生一人ひとりが、将来の夢や未来の目標を自己選択・自己決定し、それに向かっていけるよう、我々学部教職員一同、一丸となって支援いたします。後援会の皆様には、ますますのご支援・ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

最後に本教育学部の将来計画についてお伝えします。主に島根・鳥取両県のスクールリーダーを養成する「教職大学院」を、平成28年度に設置するよう準備を進めています。4年間での学部教育の上に、さらに専門の高度化が可能な一貫教育体制を構築します。今後とも引き続いてのご支援ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

島根大学「未来教師塾」開設

島根大学教育学部・大学院教育学研究科では、平成27年度の教員採用試験において地元島根県・鳥取県を中心に50名の現役合格者を輩出することができました。これは2000年以降でもっとも多い合格者数です。山陰両県では教員の大量退職の時期にさしかかっており、今後しばらくは小学校を中心に比較的多くの採用が見込める状況です。

そこで教員を目指す大学生への支援を強化し、大学で学んだ知識や様々な活動を通して得られた経験を採用試験の場で発揮できるよう、現在行われている就職支援活動を「未来教師塾」という名称のもとに統合し、1000時間体験学修のオプション・コースとして認定する制度をスタートさせました。

この教師塾では、教育現場での経験が豊富な学部教員が「師範」として学生の指導にあたるほか、学部の教員が一人丸となって組織的に学生を支援し、教師力の向上を図っていきます。

◆プログラムの一部

採用試験スタートアップセミナー：

最近の採用試験の動向について知るとともに、先輩たちの合格体験談を聞くことで、受験に向けてのスタートを切ります。

教師力パワーアップセミナー（宿泊研修）：

自己アピール文の作成や面接の練習などを通して自己分析を深めていきます。このセミナーで自分を知ることにより、課題に向けての対策を立てていきます（右記参照）。

教師力パワーアップセミナー（学内研修）：

集団面接・集団討論の練習を2～3週間に1回程度実施します。これにより教員としての自らの考えを鍛えるとともに、それを効果的に他者に伝える力を育成します。

マナーアップセミナー：

面接の際の立ち振る舞いの参考にもなるよう、教員として相応しい所作や身だしなみを伝授します。

願書・自己アピール文添削講座：願書の提出時期には、大学生の書いた願書や自己アピール文を添削・指導します。



面接練習の様子



教師力パワーアップ セミナー2015を 開催しました

2015年2月17日・18日の2日間わたり、出雲市の研修施設「サン・レイク」にて「教師力パワーアップセミナー2015（第1回）」を開催し、今年採用試験を受験する約60名の学生が参加しました（他学部生も含む）。今回のセミナーでは、自己アピール文の作成による自己分析と、現職の校長先生・若手教員として活躍する卒業生・採用試験に合格した先輩たちとの交流という2種類の活動を通じて、「自分はどのような教師になりたいのか」という問いにひとりひとりが向き合い、現時点における課題を模索しました。



集団討論練習の様子



先輩との座談会の様子

参加学生の声

- 教師になるための準備段階には「自分と向き合う」という大きな壁があり、それを乗り越えるために何度も想いや経験を言葉にする練習を重ねて行く必要があることを学びました。
- 面接練習では、話す内容とともに相手に届く言葉で答えることが大切であるということを知った。
- 教員採用試験に対して漠然とした不安があったが、何をしなければならぬか具体的に考えられるようになった。
- 現場の先生の話を知ることができ、教採に向けてのモチベーションや将来に向けての期待も高まった。

入門期セミナーⅠ・Ⅱ

《入門期セミナーⅠ》

初年次教育プログラムの一つである1泊2日のセミナーです。1000時間体験学修プログラムを理解し、4年間の大学生活の見通しを持つことを主な目的としています。4年間で共に過ごす仲間や学生スタッフの先輩との2日間の関わりを通し、幅広い人間関係を築くことができます。1年生にとって、大学生活への期待がふくらむ有意義なセミナーです。

《入門期セミナーⅡ》

※水曜4・5コマ、金曜5コマ開講

入門期セミナーⅡは、主専攻又は副専攻を決定するためのプログラムであると同時に、教育学部で開講されている幅広い授業内容を体験する「教育学部入門」としても位置づけられています。各専攻の講義内容や取得可能な免許の説明を受けることができます。



大学祭

松江キャンパスでは「凧風（しょうふう）祭」という名称で毎年10月に開催されています。



基礎体験交流会

1・2年生を対象とした基礎体験の意見交換会です。先輩や他専攻生の話を聞き、今後の各自の基礎体験活動の充実を図ります。

●●学部（大学）行事等 ★web入力（必須）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
●入学式・オリエンテーション ●入門期セミナーⅠ											●基礎体験交流会
	●入門期セミナーⅡ			●主専攻決定	●スタートアップセミナー			●介護等体験登録締切	●介護等体験説明会		
	●専攻決定ガイダンス ●一般教養ちからだめし										●副専攻決定
		●学校教育実習Ⅰ ★教職志向・進路調査			●在学生ガイダンス ●副専攻仮決定（年度末に決定）						
	●学校教育実践研究Ⅰ										
	●基礎体験合同説明会 ●基礎体験活動開始										

学校教育実習Ⅰ
教職志向・進路調査

学校教育実習Ⅰ（前期・20時間）

附属学校園で5日間、午前中は授業観察を行い、午後は大学で観察のまとめと振り返りを行います。

実習後には、第1回教職志向・進路調査を紙媒体とWebによって行います。



学校教育実践研究Ⅰ

学校教育実習Ⅰと連動して水曜3コマに開講されるコア授業科目です。授業（保育）が教師の教授行為と学習者の学習行動との相互作用によって成り立っていることを知り、授業（保育）観察の方法と授業（保育）記録のとり方を中心に学習します。

基礎体験活動開始
（1000時間体験学修プログラム）

必修の110時間（基礎体験セミナー・介護等体験など）と選択の400時間の時間認定が必要です。選択の活動では、地域のイベントや社会教育施設の活動、小・中学校での学習支援など、多様な活動に参加でき、各学年で約100時間が目安になっています。



スタートアップセミナー

入学時からの基礎体験活動の取組みを振り返る、1年生対象の基礎体験セミナーです。体験時間の確認、活動参加への心構えや手続きの再確認を行います。また、小グループに分かれて体験発表会などを行い、今後の活動をさらに充実させていくためのセミナーです。



専攻決定

専攻決定に関しては、どのような入試形態で入学したかによって選択できる専攻が異なります。専攻決定のためのプログラムは、「入門期セミナーⅡ」と「学校教育実習Ⅰ」です。

★副専攻決定について

副専攻は複数免許の取得にも直結していますが、主専攻の免許との組み合わせは教員採用試験受験校種や採用後の勤務形態とも深く関わってきます。

5

学校教育実践研究Ⅱ

学校教育実習Ⅲ・Ⅳと連動して開講されるコア授業科目です。前半は実習班で活動し、後半は専攻毎に分かれて行います。主専攻に対応する校種・教科の授業実践に焦点化し、授業分析や教材研究、教材制作のトレーニング、学習指導案作成と模擬授業を行います。また事後指導では、自らの実習を深化・発展させるための「ふりかえり」を行います。

実習セメスター

3年生の後期は実習セメスターとなっています。この期間に教育実習Ⅳ・Ⅴを行います。実習を行わない期間を活用して特別に用意された基礎体験活動を行います。公立小中学校・幼稚園に教育体験に行くことができ、教育実習とこの学外教育体験を往還させることによって、より幅広い教師力を身につけることが期待できます。

学校教育実践研究Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

●学校教育実習Ⅲ（前期・40時間・1単位）

主専攻に対応した教育実習です。附属学校・私立幼稚園の授業（保育）観察を通して、授業（保育）を「教師と学習者のコミュニケーションの総体」として把握し、学校教育実習Ⅳに必要な授業実践力の基礎を培います（人間生活環境教育専攻で幼稚園一種免許型の学生は、私立幼稚園で80時間・2単位の実習を行います）。

●学校教育実習Ⅳ（後期・160時間・4単位）

主専攻に対応し、授業実践に主軸を置いた教育実習です。学習指導に力点を置くとともに、道徳、特別活動等にも取り組みます。学習集団の形成や学級運営に係る実践的トレーニングを行い、教職へのより深い理解と基礎的な実践力の育成を図ります（人間生活環境教育専攻で幼稚園一種免許型の学生は、公立幼稚園で120時間・3単位の実習を行います）。

●学校教育実習Ⅴ（後期・40時間・1単位）

学校教育実習Ⅲ・Ⅳとは異なる校種での教育実習です。学齢期にある子どもを「成長」「発達」の総体として捉え、より豊かな子供理解を促します。なお、実習を行う校種は学生の主専攻と副専攻の組み合わせによって異なります。

●学部（大学）行事等 ★web入力（必須）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実習	○学校教育実践研究Ⅱ						○実習セメスター					
		○学校教育実習Ⅲ				○学校教育実習Ⅳ						
講義・その他	○在学生ガイダンス ○健康診断		★教職志向・進路調査			○在学生ガイダンス		○プロフィールシート(PS)作成説明会 ★PS入力		○PS返却		
			○実習セメスター説明会		○実習セメスター合同事前指導			○学校教育実習Ⅴ		○応用期セミナー ★PSまとめ ○教員採用試験合格者体験報告会		
				○面接道場					★教職志向・進路・取得予定の免許状調査		○教師力パワーアップセミナー	
	○C系・G系											

面接道場 [平成26年8月6日(水)開催]

外部の目を通して、教育学部学生に対する期待や要望を学ぶ機会が特別に設けられています。それが「面接道場」です。人生の達人である学部評価委員の方々が、面接を通して社会人としての基本的な資質を伝授していただきます。学内で事前指導も行われます。



応用期セミナー

3年生対象の基礎体験セミナーです。実習セメスター及び教育実習での活動を振り返り、今後の大学生活を展望するとともに、進路決定に向けての自己啓発を促す時間とします。学外体験活動や教育実習での学びの発表や進路希望別グループでの協議を行います。



教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取り組みです。3月の「宿泊研修」に始まり、教員採用試験の面接対策や卒業後の教員生活ですぐに必要なスキルを研修します。教員採用試験合格者や現役教員である先輩との交流会もあり、不安や悩みを解決できるセミナーです。



学校教育実習Ⅵ

学校教育実習Ⅵ(前期・40時間・1単位)
[選択]

それぞれの教職志向に対応し、主体的に選択する学校教育実習科目です。さらに深めたい学習内容や取得したい免許状に基づき、対応した深化型あるいは副免型の実習タイプを選択します。

教師力パワーアップセミナー
(未来に向けて)

このセミナーは採用試験に合格した人、不合格だったけれども講師として頑張ろうと考えている人、つまり来年の4月から教壇に立つ皆さんの未来に向けてサポートするものです。
学級担任を想定した「学級開き」の模擬授業やラウンドテーブル、中堅教員との交流会を通して皆さんの教師力をさらにアップさせます。

教師情報入力

これらの情報は、同学年や全国の動向などをふまえ、みなさんの就職支援を行う上で有益な情報となります。たとえば、あなたの現在の履修状況と進路希望とのより良い組み合わせが発見されるかもしれません。また、教員採用試験を受験する予定の県の情報をプログシステムで把握したり、就職を希望する県教委から依頼があった際に、素早く連絡を受けて就職につなげることもできます。

●学部(大学)行事等 ★web入力(必須) ■教員採用試験関連

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卒業研究	● 題目提出締切り（指導教員に提出）							● 口頭試問 ● 卒業演奏試験（音） ● 卒業論文提出 ● 卒業作品提出（美）				
教員採用試験	● 願書提出 ● 一次試験 ● 二次試験 ● 講師登録 ● 合格発表							● 各教育委員会による合格者研修 ● 勤務校決定 ● 講師採用の連絡 ● 教師力パワーアップセミナー（未来へむけて）				
その他	● 学校教育実習Ⅵ ★ 教職志向・進路・取得予定の免許状調査 ● 在学生ガイダンス ● 健康診断 ● 進路希望調査							● 発展期セミナー ● 教育職員免許状申請手続 ● 在学生ガイダンス（就職・進路調査） ● プロファイルシート（PS）作成説明会 ★ PS入力 ● 教職実践演習 ★ PSまとめ入力 さらに自分を磨く基礎体験（学校体験を中心に） ● 大学院出願（Ⅰ期） ● 大学院入試（Ⅰ期） ● 1000時間体験学習修時間認定締切り ● 大学院出願（Ⅱ期） ● 大学院入試（Ⅱ期）				
★ 教員採用試験・就職活動で変化がある度に就職支援室に報告する。また教師力育成総合支援システムにも同じ内容を入力する。												

教員採用試験

先輩からのアドバイス

- ◆受験する都道府県を早めに決め、出題傾向を分析
- ◆試験問題にはヤマをはらずに、分析結果をまんべんなく
- ◆二次対策(面接、実技など)も早めに
- ◆提出物は早めに作成、必ずコピー、早めに提出。必ず誰かに読んでもらう
- ◆問題集・参考書はあれこれ手をつけても意味がない。同じものを何回も。
- ◆先輩のアドバイス、体験談は何よりも貴重
- ◆自分の試験勉強のリズムを早く見つける(息抜き時間も必要)
- ◆友達の良いところはどんどん真似して取り入れる(仲間は大切)

未来教師塾

教員採用試験対策

〈教師力パワーアップセミナー〉

- 主に面接(集団・個人)、集団討論の練習
- 教育学部の教員や学外の教育関係に携わっている方が面接官をしてくださいます。
- ここでのアドバイスはとても重要。

〈就職支援室〉

- 証明写真の試し撮り、面接の様子を撮影してくれるサービスを開始
- 各都道府県の教員採用試験動向情報を提供
- その他の就職相談

〈その他〉

- 教員採用試験受験テキストブックをチェックする
- 各種セミナーに積極的に参加する。
- 学部情報ブログをチェックする。(教員採用試験情報が日々更新)



卒業生の声

出会いを大切に

初等教育開発専攻 吉原 紀夏



私は小学校の頃から「教師になりたい」という夢を持ち、島根大学教育学部に入学しました。大学での講義に加え、1000時間体験学修、学校教育実習、実習セメスター等々、私にとって魅力的なプログラムばかりでした。教員を目指す私にとって、島根大学の教育学部は本当に恵まれた環境の中にあっただと思います。

入学当初は教師になりたいという漠然とした夢にしかすぎなかったことが、大学生活を1年終えるごとに少しずつ“現実”へと近づいていきました。日常の講義において学び、1000時間体験や教育実習などで実践を積むことで、教師としての力だけではなく、人としての感性や魅力も手に入れることができたのではないかと考えています。特に教育実習では、実際に子どもたちを目の前に「教師」としての自分と向き合いました。まだまだ力不足な自分に悔しい思いをした一方で、少しずつ自分の夢である「教師」に近づいている嬉しさも感じました。

また、大学生活を通して、いつも熱心に指導してくださる先生方や、苦しい時にも一緒に頑張る仲間に出会うことができました。教育実習や教員採用試験対策においても、先生方や友達に支えられてここまで頑張ることができたと思っています。本当に感謝しています。春から新生活を迎える後輩のみなさんにも、ぜひ「人との出会い」を大切にしてほしいと思います。大学生活では自分次第でたくさん繋がりを増やすことができます。先生方、大学の仲間、1000時間体験先やアルバイトで出会う人々など、一人ひとりとの出会いを大切にしてほしいです。

私は4月から広島県の小学校で教員として教壇に立ちます。不安もありますが、新たな場で新たな出会いを大切に、これからも学び続けていきたいです。(広島県出身)

子どもと「共に学ぶ」ということ

初等教育開発専攻 瀬戸 翔平



もともと工学部志望だった私は、そこでやりたいことを明確にできず、昔からの夢であった小学校教員になることを決意し、教育学部を志望しました。センター試験2週間前のことでした。この時は教師という仕事に憧れがあれど、まだ漠然とした夢でした。

島根大学教育学部に入学してから、1000時間体験活動の事業である「ウィークエンドスクール」という、学習支援のボランティア活動に力を入れて取り組みました。毎週土曜日の午前中、宿題や自学を持った小・中学生の子どもたちが眠たい目をこすりながら一つの教室に集い、自主学習に取り組みます。学年の違う子どもたちが一つの部屋に集まった特別な空間で、様々な教科を指導したことはとても貴重な体験となりました。3年間同じ活動が続けたのですが、毎回の指導で学ぶことは多く、それと同時に見えてくる課題や次の指導での目標も毎回変わっていきました。その中でも特に、子どもたちと「共に学ぶ」姿勢を身に付けられたことは、大きな成長であると思います。学習指導というと、ついつい勉強で分からないところを「教える」という意識になりがちです。私も1年目は、子どもがつまづいているところを教えなければならぬと思いながら指導していました。しかし、「教える」だけでは子どもの本当の学びに繋がりにくく、つまづいた箇所が分かるようになったという満足に終始してしまうことに気が付きました。そのとき、子どもが「分からない」と声を上げているところで、指導者も一緒に考える姿勢を見せると、一気に子どもの取り組みの様子も変化しました。ここでは子ども自身が、自分で答えを導き出そうとする姿勢が見られました。子どもが新たな気付きを得たとき、「今〇〇君が発見したことは、先生も知らなかったよ」という声掛けをすると、子どもも「もっと勉強してやろう」という気持ちになります。このように、教師が子どもに教えるのではなく、教師が子どもから教えてもらうことが多くあります。ここで述べた「共に学ぶ」姿勢は、今後授業をしていく上でも、学級経営を行っていく上でも必ず活かされてくるスキルになると思います。

私は、今年の春から島根県の小学校教員として教壇に立ちます。不安もありますが、やはり楽しみでもあります。入学当初は漠然としていた理想の教師像も、4年を経て、教師になってこんな授業がしたい、学級作りがしたいなどの目標が明確になりつつあります。精一杯頑張っていきたいと思います。(島根県出身)

「出会い」で形作られる私

言語教育専攻 英語教育コース 清水 優花



「人と出会うことで削られて、お前ができていく。」これは、学部の先生に頂いた言葉です。人と出会うことで、型抜きのように削られ磨かれて自分自身が形作られていくということです。この言葉を聞いて、私はこれまで多くの人に出会い影響を受けて、今の私がいるのだということに気付かされました。さらに言えば、私はまだ成長途中で、これから人と出会うことでまだまだ磨かれていきます。そして、これは私だけに言えることではなく、すべての人に言えることです。

もうすぐ、私の4年間の大学生活が終了しようとしています。この4年間で振り返っても、今の私を形作る多くの出会いがありました。大学では手厚く指導してくださる先生方のもと、互いに高めあえる多くの仲間たちとともに成長してきました。実習先では貴重な時間を割いて指導してくださる先生方のもと、私にとって初めての生徒を前に多くの授業実践を経験させていただきました。実習セメスター先では現職の先生方から生徒との接し方を学び、笑顔が可愛い生徒たちと一緒に時間を過ごしてきました。そういった人たちとの出会いで、私はいまここに立っています。

この春から私は島根県で教員として働きます。私が教員という仕事を選んだ理由の中のひとつに、多くの出会いがあることが挙げられます。子どもたち、同僚の先生方、保護者や地域のみなさん。今はこれからの新しい出会いにわくわくしています。これから出会う生徒たちにも、ひとつひとつの「出会い」を大切にしてほしいと思います。そしてその「出会い」を通して、相手のこと、自分自身のことを大切にできる教室をつくっていききたいと思います。

(島根県出身)

5年間の大学時代

言語教育専攻 英語教育コース 鎌田 哲成



私の大学時代を本音で回想したいと思います。

- 1年生：1000時間体験学修に打ち込み、子どもを表面的に理解しました。表面的というのは、子ども心理や発達段階という概念が私の頭になかったからです。おそらく大学の講義では学んでいましたが、その理論を実践の中で意識していませんでした。
- 2年生：個別学習塾で教科指導を週5日、3時間程度行っていました。ここでは、教科指導力をつけることができました。一方で、生徒理解は依然として置き去りにされたままです。
- 3年生：島根大学の交換留学プログラムでアメリカに渡り、英語力を高めました。英語教員を目指す私にとって海外留学は譲れない決断でした。
- 4年生：国際交流事業に積極的に参加しました。英語を使う楽しさや人とつながることの大切さを実感しました。たくさんの人と出会えば、その分、様々な刺激が受けられます。
- 5年生：留学で1年お休みしていた分の学年です。夏には教員採用試験を受験しました。面接練習は自分の教育観を見つめ直すきっかけになり、その都度、生徒理解のあり方を模索しました。それによりそれまでは頼りなかった生徒理解力を高めることができました。教員採用試験に向けて主体的に学習したことで、ようやく大学で学んできたことがストンと頭に落ちました。ちょうどそんな時期に、本来3年生で行うはずであった教育実習を行いました。生徒理解と教科指導力、そして様々な人とのつながりを経て磨いてきた人間力を武器に、一カ月間、生徒たちと向き合いました。理論と実践がようやく結びつきました。

どうだったでしょうか？ 私が大学時代に常に意識していたことは、「英語教員になる上で今つけるべき力は何か」ということです。

さて、こんな私ですが、来る4月より島根県の高校英語教員として働くことになりました。このような経験をさせてもらった島根大学に感謝を忘れず、高校では英語の魅力をしっかり伝えていきたいと思います。(島根県出身)

人との出会い、つながりに感謝する

言語教育専攻 英語コース 関 裕美



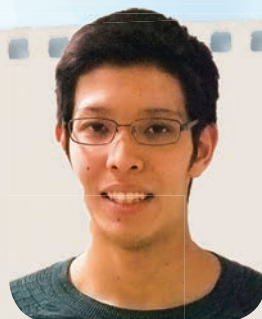
私は人が好きです。それはきっと、今までに私が出会い、関わった方々が素敵な人たちであったからに違いないと考えています。この4年間で過ごした日々を振り返ってみても、本当に多くの人との出会いがありました。

島根大学教育学部には、自分と同じ目標を持つ心強い仲間たちがいます。互いの意見を交換しながら、時に切磋琢磨し合って共に過ごした時間はかけがえのないものです。そしてそんな仲間たちに加え、多くの信頼できる先生方がいます。どの先生方も学生に対して深い愛情をもって接してくれ、特に今年の夏に受けた教員採用試験では、熱心に対策や指導をして下さいました。そして大学内だけの人間関係ではなく、1000時間体験プログラムでは学校や地域、社会教育施設などに自ら積極的に出向くことで、そこで関わる人々から自分の視野を広げるきっかけをもらうことができます。また、一番印象深く、大切な思い出として残っている教育実習では、附属学校園の先生方の手厚い指導を受け、子どもたちはもちろん、一回の授業実践に対しても真摯に向き合うことで少しずつ教師として必要な見方や考え方を身につけることができたのではないかと思います。このように島根大学教育学部で過ごす4年間は人として、社会人として、そして教師になる者としてとても大切な経験ができる機会が多く、恵まれた環境にあります。そしてその経験一つ一つに出会いやつながりがあり、それらを通して私は、人と関わり合うことで人として成長できるのだと実感することができました。

私は、島根大学教育学部で過ごしたおかげで、ぶれることなく4年間「教師になりたい」という強い気持ちを保ち続けることができました。4月からは岡山県の中学校英語教員として教壇に立ちます。不安な気持ち、怖い気持ちももちろんありますが、春からまた新たな人とのつながりができることを信じて、子どもたちにもそのかけがえのなさを伝えていきたいと思います。(岡山県出身)

“The Curious Case of Shinji Aoki”

言語教育専攻 国語教育コース 青木 紳次



一言でまとめると「分からないこと」だらけの大学生活でした。「教師になること」を例に挙げると、一般に指導困難校と称される学校で過ごした青春時代を思い出して、「あそこに教員として戻るのか?」「みんなは何を考えているんだ?」など、そんなことを自問自答して悶々としていた時期もありました。

どれだけ頭を捻ってみても良いアイデアが浮かんでこない時、僕は友人や本の中にヒントを求めます。島根大学のカリキュラムには、1000時間体験活動や4年間を通じて行われるセミナーなど、学生はもちろん様々な分野で活躍する大人とも自然な形で関わる時間が設定されているため、4年間を通じて数多くの人とつながりをもつことができたと思います。

時には夜を徹して文字と向き合い、仲間たちと語り明かした時間はあっという間に過ぎていきましたが、「?」に対する答え(のようなもの)に近づいていく過程では、また新たな疑問に直面することもしばしば…今振り返ってみると、このような「謎が謎を呼ぶ過程」(ある問いに対して仮説を提示し、その事例の反証を通じて自らの知識や考えが相対化されていく)にこそ、僕にとって何よりの「学び」があったのかも知れません。抱えきれない程の「分からないこと」に囲まれた大学生活は、充実した「学び」の連続でもありました。

来年度からは故郷である兵庫県で、高等学校の英語教員として働きます。これまでとは違った立場で子どもや保護者と接するにしても、僕にとっての「学び」の日々はこれからも続いていきます。新たな「謎」に対して眼光を輝かせ、絶えず試行錯誤に熱中すること。教師として「分からないこと」に向き合っていく姿勢を大切にして、ひとつひとつの「出会い」を生徒たちと膨らませていけるような、そんな教育を実践していきたいです。(兵庫県出身)

後援会活動の概要

平成26年度

1. 学生教育活動の支援

- ①1000時間体験学修、面接道場、教師力パワーアップセミナー、ビビット広場など学生教育活動事業経費への助成
- ②学生の体験活動等の交通費補助（全学年）
- ③大学院生の学会発表等の交通費補助
- ④ICTルームの書籍整備への助成



ビビット広場



明るくて快適な
ICTルーム 金魚鉢

2. 教育実習の支援

- ①教育実習を充実させるため、各実習受入校の実習経費への助成(学生が実習で使用する文房具や教材等への助成)
- ②教育実習ワークシート作成への助成



教育実習

3. 就職活動の支援

- ①教員志望学生の援助
教員採用試験に向けての対策と指導に関する経費への助成
- ②教員採用試験受験テキストブック作成に関する経費への助成

- ③就職支援室の書籍整備等への助成

- ④企業志望学生の支援

就職ガイダンスを開催し、企業就職関連の各種セミナー等を行なう経費の助成

- ⑤4年生の就職活動の交通費補助

- ⑥教員採用試験の模擬試験の受験料補助

4. 国際交流活動の支援

釜山教育大学校（韓国）との交流事業等への助成、テキサス大学、ミシガン大学学生との交流活動への助成

5. 教育環境整備の支援

構内の教育環境の改善を図り、学生の生活環境の向上及び充実のための施設整備経費への助成（トイレ内整備、玄関の花壇整備など）



正面入口前広場の花や観葉樹

6. 広報事業の実施

後援会事業活動報告及び学部教育・研究活動並びに学生生活の様子等をお知らせするための機関誌「教育学部後援会誌」を発行

7. 課外活動の支援

在学中における各種部活動、大学祭、寮祭、中四国大学学生競技大会参加等の活動費への助成



就職支援室

平成27年度

教育学部後援会幹事名簿

地 区	氏 名	在学年	学生氏名	備 考
境港市	安 達 義 昭	4 年	安 達 和 哉	
出雲市	安 達 清 志	4 年	安 達 悠 太	副会長
米子市	景 井 芳 則	4 年	景 井 啓 祐	
出雲市	吉 野 功	4 年	吉 野 ゆうか	会 長
松江市	原 田 和 雄	4 年	原 田 扶未子	
出雲市	石 橋 利 正	3 年	石 橋 奎 吾	
雲南市	狩 野 明 芳	3 年	狩 野 雅 文	副会長
松江市	山 本 大 介	3 年	山 本 友 香	監 事
雲南市	渡 部 祐 治	3 年	渡 部 恭 輔	
松江市	足 立 智 伸	2 年	足 立 知歌子	監 事
米子市	荒 木 祥 子	2 年	荒 木 裕 輔	会計幹事
雲南市	永 井 厚 守	2 年	永 井 雄	
出雲市	日 野 寿 明	2 年	日 野 佳寿美	

(順不同、1年生からの幹事は未定)

- 発 行 島根大学教育学部後援会
E-mail edu-jimu@office.shimane-u.ac.jp
ホームページURL <http://www.edu.shimane-u.ac.jp/edu/koenkai.html>
- 発行日 平成27年4月1日
- 発行所 島根大学教育学部内 教育学部後援会事務局
- 所在地 〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852-32-6251)
FAX (0852-32-6259)
- 印 刷 株式会社谷口印刷